

経営比較分析表／団体全体（令和6年度決算）

岡山県 岡山市

【事業概要】

業務名	業種名	現在配水能力(合計)(m ³ /日)	類似団体区分	施設数	1日平均配水量(m ³)
法適用	工業用水道事業	27,100	小規模	2	20,911
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	給水先事業所数	契約水量(m ³ /日)	管理者の情報	
-	88.9	14	25,495	自治体職員	

グラフ凡例

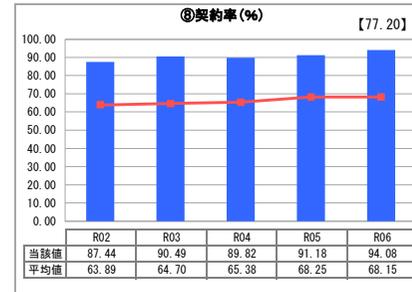
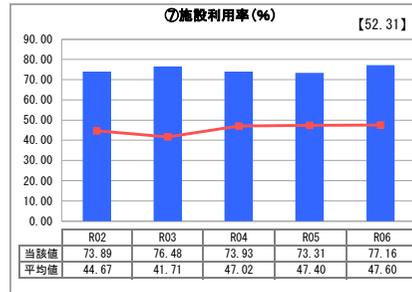
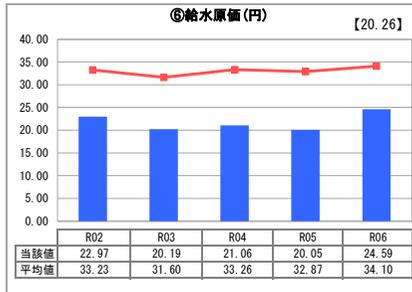
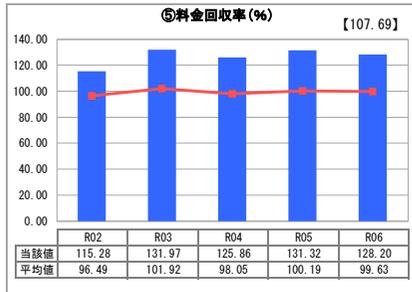
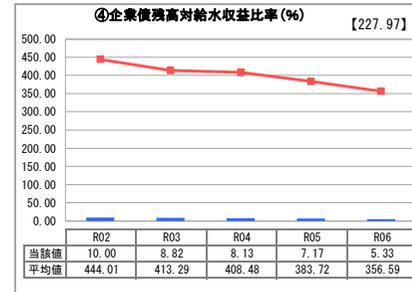
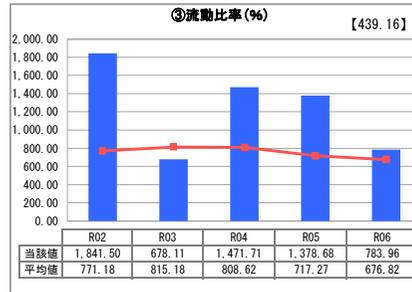
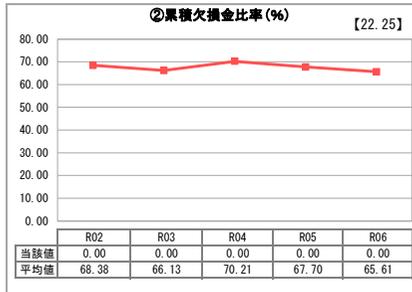
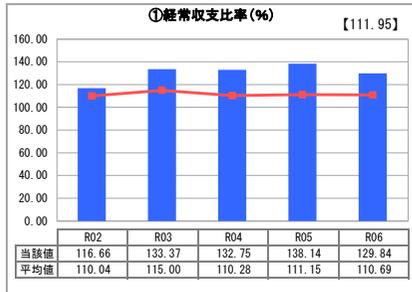
- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和6年度全国平均

分析欄

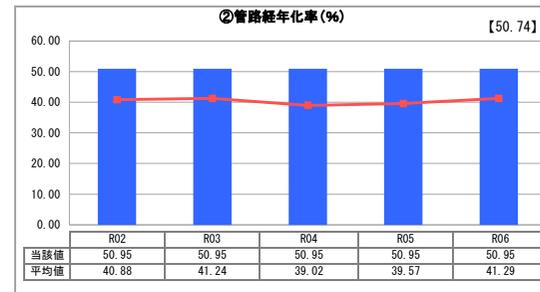
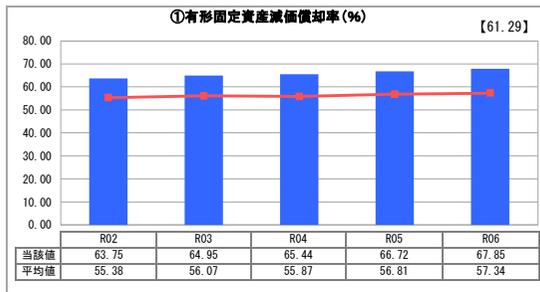
1. 経営の健全性・効率性について

収支の状況を示す「経常収支比率」について、令和5年度と比較して低下しているのは、営業費用の増加等で経常利益が減少したことによるものです。短期的な債務に対する支払能力を表す「流動比率」については、負担金等の費用が未払金に計上されているため、前年度から減少していますが、類似団体平均と同程度の水準です。企業債の規模を表す「企業債残高対給水収益比率」は、企業債の新たな借入を行っていないため、類似団体平均値と比べると、かなり低い値となっています。また、施設の利用状況や適正な規模を表す「施設利用率」、事業の収益力を表す「契約率（配水能力に占める契約水量の割合）」は過去5年間類似団体平均を上回る値を維持しています。

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



全体総括

本市では老朽化した施設や管路の計画的な更新と災害等に備えた耐震化が課題となっています。この対応策として、令和6年度には料金改定による給水収益の増収、更には水道との施設共用化によって更新費用を抑えることで、経営改善を図りました。しかしながら、本事業の経営環境は決して楽観できるものではなく、将来にわたって安定的に事業を継続していくため、水需要に合った事業マネジメントにより効率的な経営に努めます。